

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
E111C006		家庭(小)(Home Economics (Elementary School))																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
必修	2	1	教育学部 平成31年度以前入学生 用			氏名 望月 聡, 財津庸子, 都甲由紀子, 川田菜穂子, 齊藤友子 E-mail 望月: smochi@oita-u.ac.jp 財津: yzaitsu@oita-u.ac.jp 都甲: togo-yukiko@oita-u.ac.jp												
授業の概要	小学校家庭科の教科書に記載されている内容について理解する。また、それぞれの領域のもつ特徴について理解し、2年次の家庭科指導法(小)につなげる。小学校家庭科教科書の記載内容を確実に理解し、分野別の特徴を理解し、必要な技能等を修得する。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	小学校家庭科教科書に記載されている内容を説明できる。																	
目標2	食生活分野: 食品及び栄養に関する基礎知識を説明できる。																	
目標3	住生活分野: 住まいの機能や役割を理解し、安全で快適な住まいづくりに関する基礎知識を説明できる。																	
目標4	消費生活分野: 消費生活の現状を把握し、よい消費行動及び必要なスキルの基本を説明できる。																	
目標5	家族関係学分野: 自分の家族関係を振り返り、心地よい家族との生活について説明できる。																	
目標6	衣生活分野: 布を用いて作品を製作し、快適な衣生活に必要な基礎知識を説明できるようになる。																	
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	ガイダンス、消費生活・消費者とは(担当 財津庸子)																	
2	物や金銭の使い方と買物(担当 財津庸子)																	
3	環境に配慮した生活の工夫(担当 財津庸子)																	
4	衣服の働きと日常着の快適な着方(担当 都甲由紀子)																	
5	布を用いた生活に役立つ小物(担当 都甲由紀子)																	
6	日常着の手入れとこれからの衣生活(担当 都甲由紀子)																	
7	住教育の課題と工夫(担当 川田菜穂子)																	
8	住まいの基本的な機能/季節の変化に合わせた住まい方(担当 川田菜穂子)																	
9	整理・整頓や清掃の仕方の工夫(担当 川田菜穂子)																	
10	栄養素とその働き(担当 望月 聡)																	
11	おもな食品の特徴と調理の基礎理論(担当 望月 聡)																	
12	調理における安全・衛生(担当 望月 聡)																	
13	子どもの成長と「家庭生活と家族」のかかわり(担当 齊藤友子)																	
14	家庭の仕事と生活リテラシー(担当 齊藤友子)																	
15	家族と家族を取りまく地域の人々(担当 齊藤友子)																	
ラ ッ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	小テスト、布を用いた製作実習、ループリックによる作品の自己評価、調査					工 夫 そ の 他 の	Moodleの活用(フォーラム, アンケート, 小テスト)										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	事前に提供された資料等に基づいて予習する(15h)。																
	事後学修	授業中に課された課題に取り組む(9h)。授業中に指示をした実習に取り組む(12h)。																
教科書	「わたしたちの家庭科 小学校5・6」開隆堂 令和2年発行 文部科学省 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編 平成30年発行																	
参考書	中西雪夫・小林久美・貴志倫子編著「小学校家庭科の授業をつくる一理論・実践と基礎知識」学術図書出版社 お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会著「作る手が子どもたちを輝かす アクティブラーニングが育てる これからの家庭科」地域教材社 鶴田敦子・伊藤葉子編著「授業力UP 家庭科の授業」日本標準																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	期末試験	47%																
	課題	28%																
	布を用いた製作実習	8%																
	授業中の小テスト	17%																
注意事項																		
備考	担当者の都合により、分野別に講義の順番が入れ替わることがあります。 実習をとまなう教材研究においては、費用の自己負担が生じることがあります。																	
リンク	URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	高等学校・中学校教諭（財津）食品企業勤務、高等学校非常勤教員（望月）、住宅企業勤務（川田）、カウンセラー（齋藤）、高等学校・中学校教諭（都甲）
実務経験を いかした教 育内容	教育現場の具体的な課題に焦点を当てた内容を扱う。